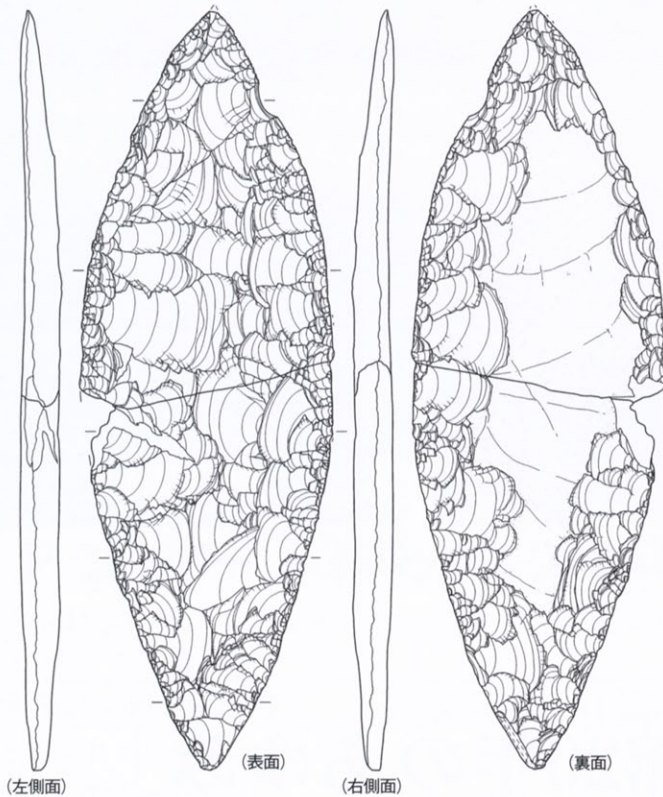


まつど MATSUDO MUSEUM ミュージアム

松戸市立博物館情報誌



(原寸)

●コレクション紹介

木葉形尖頭器 (子和清水遺跡出土)

今回紹介する石器は、総合展示室で展示中の尖頭器(石槍)です。木の葉の形をしているので、木葉形尖頭器とよばれています。長さ21.4cm、幅7.1cm、厚さ1.1cmで、千葉県では最大級の尖頭器です。

大型の石片を素材にして平坦剥離によって表・裏面が加工されています(実測図参照)。このような大型で木の葉形をし、薄く仕上げられた尖頭器は縄文時代草創期に特徴的な石器です。槍の穂先として用いられたと考えられていますが、大きすぎるので、実用品ではなく、権威や社会的地位と結びつく財物である、という考えもあります。

子和清水遺跡は縄文時代中期の大遺跡として有名ですが、草創期の遺物も発見されていることはあまり知られていないようです。松戸市には縄文時代の遺跡が約150か所ありますが、草創期の遺物が発見されているのはこれまでのところ子和清水遺跡を含め6か所です。このように、まだ発見された遺跡が少なく考古学的なデータが多くない時期の出土品として貴重な事例であり、また、同時期の尖頭器としては大型である点も注目される点です。

「写真でみる松戸市の70年」

昭和18年(1943)4月1日、松戸町・馬橋村・高木村が合併し松戸市(人口約4万人)が誕生しました。

東京近郊の農村だった松戸市は戦後日本の高度経済成長により、東京の住宅地へと大きく変貌していきます。

人口の増加は松戸市の予想を大きく上回り、学校の新増築、道路、治水、環境衛生施設の整備など都市対策が市の大きな課題となりました。この展覧会では松戸市の70年のあゆみを、新たに収蔵した写真資料を中心に紹介します。



市制施行前の松戸町役場職員(昭和18年頃)
前列中央で手を組んでいる人物が
初代松戸市長の門六郎です



旧水戸街道松戸駅入口交差点(昭和34年)
駅前には木造家屋が密集していました



小金原団地入居風景(昭和44年)
約1万人の新しい市民が誕生しました



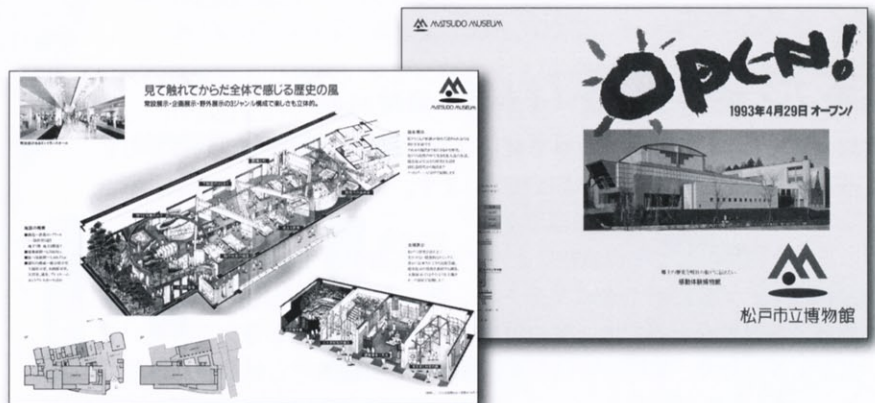
第1回松戸まつり(昭和49年)
会期中の人流は約13万人でした



「松戸市立博物館20年のあゆみ」

松戸市立博物館は平成5(1993)年4月29日に開館しました。みなさまのご支援により、おかげさまで20回目の誕生日を迎えることができました。

この間、さまざまな活動を展開してまいりましたが、この展覧会では、これまで博物館が行ってきた調査研究、資料収集、展示、普及などの活動を振り返り、今後の博物館のあり方を展望するための機会としたいと考えております。



会期 4/27(土)~6/9(日)
会場 企画展示室

観覧
無料

コレクションについて

松戸市立博物館学芸員 小高 昭一

松戸市立博物館は本年4月に開館20周年の節目を迎える。これを機に当博物館の所蔵資料について記してみたい。

一般に博物館にはコレクションと呼ばれる特定の文化財があり、その博物館の特徴として広く認知されているコレクションも多い。当館にも考古学・歴史学・民俗学の三分野それぞれにコレクションがある。

自分の担当する歴史分野でのコレクションでは、街道・宿場に関する文書・錦絵、小金牧・御鹿狩の文書・絵図・錦絵、旧一月寺・虚無僧の文書・錦絵を挙げることができる。これらはともに近世（江戸期）のこの地域の特色を示す

文化財であり、収集に重点を置いている。そのため機会がある度に購入している。ただ古書市での入札会では落札できない時や、送られてくるカタログをみて電話で照会したら、直前に売却済みとなってしまった事もあった。費用の制約もあるが、今後も収集に努めることは言うまでもない。

他に市内旧村の名主家等の古文書等も寄贈・寄託をうけ、貴重な歴史資料として保存している。これもコレクションに数えなければならない。今後も増えると想定している。

問題はコレクションを収蔵・保存している特別収蔵庫の容量である。開館以来20年で当初想定していた容量がやがて限界を迎える。当館の「売り」となるコレクションの収集を継続するためには、最も難題である。

アンケートボックスの中の声

今回は以下のようなご意見をいただきましたので、お答えいたします。

〈常設展示アンケートより〉

こどもにわかりやすいように!!
(10代・女性/小学生)



博物館より：当館の常設展示では他にも、こども向けの展示について「解説文にもっとふりがなをつけて欲しい」、「体験型の展示を希望する」など、貴重なご意見・ご要望を多くいただいております。平成23年度より当館は小・中学生の観覧料が無料となり、こどもたちがより一層、博物館に慣れ親しんでもらうための展示づくりを目指し、常設展示では「こどもクイズ：縄文時代編/近・現代編」を作成したり、模型をじっくり見て楽しむための双眼鏡を設置したりするなどの取り組みを実施しています。

また昨年秋に開催した企画展「東日本の古墳と渡来

文化」でも「渡来文化にレッツトライ!」という、こども・家族向けプログラムを実施しました。展示資料に関する「こども向けワークシート」、「しおりづくり」、「古代の冠・衣装体験」の3つですが、「クイズやしおり作りがたのしかったです!」(10代・女性/小学生)

など、こどもたちから好評を得るとともに、ご家族・一般の方々からも「特に、こども向けクイズ形式のパンフレットはとてもわかりやすくてよいと思う」(30代・女性)「クイズにして考えてみると理解が深まる。」(30代・女性)とのご意見・ご感想を多くいただきました。

今後もこのようなこども向け・家族向けの展示や体験教室などの充実をはかっていきます。

今後とも皆様のご意見を参考に、一層親しまれる博物館へと努力してまいります。ご協力お願いいたします。

行事案内 (～2013年度前半分)

■ 展示=2ページ参照。

次の展覧会 資料展「人生の民俗」(7月20日(土)～9月16日(月・祝))
 内容：人は誕生し成人となり結婚し、やがて老い死を迎えます。そして先祖としてまつられます。この展覧会は、当博物館が収集したさまざまな民俗資料によって、人生の姿を表します。(観覧料無料)

■ こども体験教室

「米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」
 (5月18日～26年2月1日、全10回) 定員：15名(小4～6年生・抽選)
 「勾玉(まがたま)をつくろう」(5月3日・8月10日、各日午前・午後)
 定員：各回15名(抽選、2日合計60名、小学生対象)

■ 講座

「古文書を読む(近世中級編I)」(5月26日～6月23日の毎週日曜・連続5回)
 講師：中野達哉氏(駒澤大学教授) 14:00～16:00 定員：30名(抽選)

■ 館内公開

「博物館の裏方、お見せします」(5月5日(祝・日) 10:00～11:00)
 定員：15名(抽選・一般対象)

■ ミュージアムシアター (～7月)

毎日2回(13:15～、15:15～、土・日・祝日は11:00～も上映) 無料
 定員・各回80名(一般)※ご自由にお入りください
 4月「送り大師ー東葛印旛大師講の人々ー」(30分:松戸市立博物館制作)
 5月「港が築いた日本の国際化ー横浜・横須賀の近代化遺産ー」(45分)
 6月「倉橋の弥勒三番叟ー千葉県指定無形民俗文化財シリーズー」(29分)
 7月「遊び場のない子どもたちー昭和30年代の日本・家族の生活ー」(37分)

■ 講演会

友の会記念講演会「幸田貝塚の縄文土器海を渡るー海外における日本考古展ー」(5月11日(土) 14:00～16:00)
 講師：望月幹夫(当館館長) 会場：森のホール21レセプションホール
 対象：一般 定員：100名(当日先着順)
 歴史を語る①「よみがえる街頭紙芝居の世界ー一路地裏の文化史ー」(講演と実演)
 (5月19日(日) 13:00～15:00)
 講師：榎本千賀氏(大妻女子大学教授)
 会場：講堂 対象：一般 定員：80名(抽選)
 歴史を語る②「(仮)ベトナムの発掘現場からー東南アジア考古学の可能性ー」
 (6月15日(土) 13:00～15:00)
 講師：山形真理子氏(金沢大学国際文化資源センター特任教授)
 会場：講堂 対象：一般 定員：80名(抽選)

●その他の行事につきましては、館内・館外のポスターやチラシ、当館ホームページ等をご覧ください。ハガキでお申込みが必要な催しは、詳細をご覧になり、内容をよくご確認の上ご応募ください。

●ミュージアムシアターでは、音声の聞き取りにくいお客様のために、一部の席にヘッドフォンをご用意しております。係員に声をおかけください。また、講演会開催等で13:15～の上映を中止させていただく場合がありますので、ご確認の上ご来館ください。

●行事の内容は3月末現在のものです。やむをえず変更する場合がありますので、ご承知おきください。

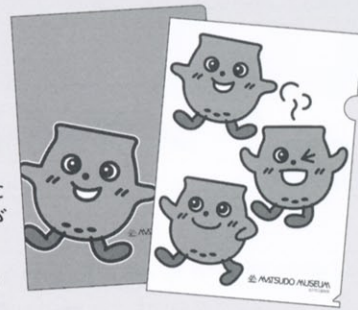


ミュージアム ショップの 新商品

①平成24年度企画展図録
 『東日本の古墳と渡来文化』
 ¥1,000
 A4判120頁(カラー)

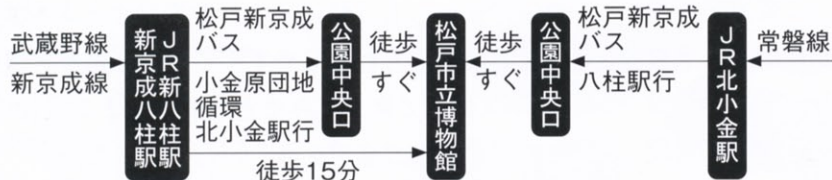


②オリジナルグッズ
 クリアファイル「コシッキー」(2種)
 ※松戸市行人台遺跡で発見された古墳時代の土器「甗(こしき)」がモデルです。
 ¥150(各種)
 A4判



- 開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝・休日の場合は翌日休館)
 館内整理日(原則として毎月第4金曜日)
 燻蒸期間(6月24日～7月1日)
 年末年始(12月28日～1月4日)
- 常設展観覧料 ()内は20名以上の団体料金。企画展・特別展は別料金です。
 一般/300円(240円) 高大生/150円(100円) 小・中学生は無料(市内・市外問わず)
 <観覧無料のご案内> 下記に該当する場合は無料で観覧いただけます。
 市内在住で70歳以上の方、市内在住で身体障害者手帳または療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を持っている方とその介護人。

●交通案内



来館者専用の駐車場はございません。ご来館の際は公共の交通機関をご利用になるか、21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用ください。なお、障害者専用の駐車場をご用意しております。詳しくはお問い合わせください。